

授与機関名 順天堂大学

学位記番号 甲第 1784 号

The waist circumference-adjusted associations between hyperuricemia and other lifestyle-related diseases

(腹囲で調整した高尿酸血症とそのほかの生活習慣病との関係)

宮上 泰樹 (みやがみ たいじゅ)

博士 (医学)

論文内容の要旨

高尿酸血症・腹囲増加と生活習慣病の間には密接な関係があるが、不明瞭な部分がある。本研究では、性別・腹囲の影響を調整する事で、高尿酸血症と生活習慣病/腹囲の関係の一端を明らかにする事を目的とした。本研究は、横断研究で行われ NTT 東日本関東病院の人間ドックを 2006 年から 2015 年の間に受診した 33498 人を対象に行われた。メタボリックシンドロームの基準は日本の基準を使用し、高尿酸血症は日本のガイドラインにのっとり尿酸値 7 mg/dl 以上を高尿酸血症とした。初めに、対象を腹囲で 4 分位した。(男性:<78.4 cm, 78.4-83.5 cm, 83.5-89 cm, and 89 cm; 女性: <71.6 cm, 71.6-77 cm, 77-83.2 cm, and 83.2 cm)そして、それぞれの集団においてメタボリックシンドローム構成因子が 2 つ以上あるかどうかと、高尿酸血症の関係について評価した。次に、多重ロジスティック回帰分析で「メタボリックシンドロームの構成因子が 2 個以上」を従属変数、年齢・高尿酸血症の有無・腹囲径・生活習慣を独立変数として調整し解析を行った。多変量解析の結果、男女ともに年齢・腹囲径・生活習慣で調整しても、高尿酸血症は「2 個以上のメタボリックシンドローム構成因子」の独立した予測因子だった。[男性:尿酸値>7mg/dl (OR: 1.70, 95%CI: 1.57-1.83), 女性:尿酸値>7mg/dl (OR: 3.39, 95%CI: 2.09-5.37)]今回の結果から、高尿酸血症は腹囲径やメタボリックシンドロームにおいて重要な因子であることが示唆され、生活習慣病・心血管疾患の予防のためには、高尿酸血症はより注目されるべき異常かもしれない。